



小松宇浦東路記

非正月初の八日為村武尊
沿北乃傍より鐵列を一偈
消息を添給ふに存りきし
まことしきり元せてそ日
の事この里をまじり此湖
心そあつてうらまのまじ
より人集居て心あつて



Small red seal impression at the bottom left of the textured paper.

うつわつじに習人のいふ

山をこし河のほとりまちうりむ
ちりちりしくかきや

おんくさめをたしむ

ちかちかおのちかちか

て友きよあつういふいふ

おのちかちかおのちかちか

うみほろいふいふいふ

乃ちけちうちら一舟矢橋め

浦上ま南やう一浪のわたらぬ

りちり一ちかちか

心ありて時雨くる鏡山老る

ちりぬ海をみせと此をいふ

いぬおちちり水の里とて

さふ都ち人のまてういふ

こころけいちね鶴鳴をまじり

此里をいふ辰刻ちかちか

一巻暫時体息ゆるよけ

乃一封をいふちかちか

心ちり一ゆる

柏坂乃園のあを鹿山とて

スツク神をいふあつう

乃一封をむくけておの別れし更の
心ら——ゆきい

相坂乃園のふゆを鹿山よりまら
たつて神を——くあつとすまひて
消息をたれはつたの別れしとけしせ
たつてまも下恩の地ちやきて東
の極ちぢいけう——るめきささんと
こ留やつまわ

別れぬえさ老さる初さる君と我
とのまのうらも——す三四句莫
忘風流旧同友花時落下物
遭逢と祝し給つとわい——あ
於鹿の山神前をた

花の時あらしもあつて冷麻山祇
よそのつらうすまむ緒け里をたてハ
十願河のつらうすまむ緒け里をたてハ
こま——つた出つとこま——あつち中——

風をききまらふのせまらつて

りくたををうめひたつとくつら
まう笑興して庄野とつら所
こ一宿を曉天つ出てあま名里

美城いふ念志つく物語し極

めくちんをいぬたつとくつを
まへ笑興して庄野とつ所
一宿と暁天へ出て舟名里
美城へ出公志しく物語極
まゝりて追風り舟りあきて
吹風得時刻ゆる尾浪回頭田
の浦と美一宿りのとあくる朝
あつこつとつて三河回藤川の
里一宿明は藤川と出て二村山
を三河の雲をりこめてるこつ
分とまゝりてと美とあつ吉田の里
を三河の井のり舟行て前坂
りよと一宿瀧名の橋の夕極
さつてのりあつあつり舟と古と思
山ぬ西門さつあつ雷あつり舟の
言ふあつあつて七刻り舟と立玉
天龍のり舟と越つ三河の宿を
のりあつて新坂り舟と一宿り舟の
中川のり舟と見まゝと美とあつ
の雲と吹掛て月さやうとつり舟と出
中山のり舟と時とぬ麻の聲と人我為
とやあつと美とあつ
時雨つる舟の雲向月とつて藤のり舟

の雲は咄掛て月もやうちうちとけ里を
中はうららかな麻の聲は我為
とやあ〜とまうむし

時雨つる嵐の雲河月よ〜と麻の音に
ゆ〜とやあ〜とまうむしの聲は
大井川〜とやあ〜とまうむし
鳴田〜とやあ〜とまうむし
ちんぼる音も〜とやあ〜とまうむし
うほの〜とやあ〜とまうむし

ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は

ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は

ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は
ま〜とやあ〜とまうむしの聲は

たもに一宿け國の若下官平行
ほろひおきし昔年のともしと
出る夜多うらちり曉よと
ひて清見の園の霧園うら
ちの浦ねきとていふと
まゝおの月清見せきの戸を
あけてしきほの浦おちがえ
まゝくまゝし夜明けの白
うらちまじりて極くしあまを
廣のちりりも 白
妙の雪と書とて多うあうとす
うつをぬかたぬとちりり
ちりりくいの余に

つまじんの年平行
まゝおの雪のあけの
しる書をゆき様ちめ
よふまじりてちりり
ちりりくいの余に
書拾ゆりぬ